
バックパックサウナ RB170M 取扱説明書

本製品を正しく安全にご使用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られるところで大切に保管してください。






目次




1. 安全上のご注意	2
2. 本製品の特徴	4
3. サイズと各部名称	4
4. 仕様	4
5. セット内容	4
6. 組立	5
7. 使い方	10
8. 入浴について	13
9. 消火	14
10. 緊急時の対処法	14
11. 撤収・バックパッキング	14
12. メンテナンスと保管	15
13. アフターサービス	16

1. 安全上のご注意（安全のため必ずお守りください）

■警告表示について

本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。次の図記号・表示をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項を必ずお守りください。

 しなければいけない行為を示しています
 してはいけない行為を示しています
 注意をうながす事項を示しています

 危険	この表示の注意事項を守らないと、人が死亡または重傷を負う、または火災の危険が生じます。
 警告	この表示の注意事項を守らないと、人が死亡または重傷を負う、または火災の危険につながる可能性があります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、人が障害を負う可能性や、物的損害の可能性がります。

危険



宿泊禁止



常に換気



ストーブ扉
開放危険



煙突の外れ
危険

- ⊙ 本製品は屋外専用の携帯式スチームサウナです。用途以外(特に宿泊目的)のご使用はおやめください。
- ❗ 換気せず使用しないでください。一酸化炭素中毒の危険や、燃焼不良の恐れがあります。換気口の近くに物などは置かず、使用中は常にテントの中へ新鮮な空気を取り込んでください。
- ⊙ 本書で指示のあるとき以外は、ストーブの扉を開けたまま使用しないでください。また、破損等により扉が閉まらない場合は、直ちにご使用を中止してください。テント内に一酸化炭素を含む煙や火の粉が漏出し危険です。
- ⊙ 煙突が外れたまま使用しないでください。一酸化炭素を含む煙がテント内に漏れて危険です。ご使用前に必ず煙突がしっかりと接続されていることをご確認ください。

警告

- ⚠ ストーブの燃焼中または直後は、ストーブ、タンク、煙突の表面や水蒸気出口が高温になりますので、火傷に十分ご注意ください。ストーブを操作するときは、必ず燃えにくく断熱効果のある手袋を着用してください。
- ❗ 設営地は、突然天候が悪化した場合に備えて、速やかに身の安全が確保できる場所で、なおかつストーブのぐらつきや、人がつまず凹凸がない平らな場所に設営してください。
- ⊙ ストーブの下部は高温になりますので、ウッドデッキや枯れ草が茂る地面など、使用中に燃えたり溶けたりするものの上にストーブを置かないでください。また芝など、植物の発育にも影響を及ぼす可能性があります。
- ❗ 煙突の出口から周囲の燃えるものまでは、3メートル以上離してください。また、枝葉が茂る樹木の下、周囲に枯れ草や落ち葉などの引火しやすいものが堆積している場所、人が居る他のテントやタープの近くでは本製品を設置しないでください。

- ❗ ストーブとテント生地(他の可燃物も含む)の間に30cm以上、蒸気過熱器とテント生地の間に20cm以上の離隔を設けてください。火災の原因になります。
- ❗ ご使用中は一定の時間で、張り綱の緩みや換気口の閉塞がないかを確認してください。
- ⊘ 本製品の分解や改造は絶対にしないでください。
- ⊘ 本製品に破損や劣化が認められた場合はご使用をおやめください。
- ⊘ ストーブの燃料はよく乾燥した自然の薪のみご使用いただき、石炭・練炭・豆炭等の他の燃料は使用しないでください。損傷や火災、一酸化炭素中毒の恐れがあります。
- ⊘ 水分を多く含む薪、紙や落ち葉など、爆ぜる・火の粉が飛散しやすい燃料を燃やさないでください。煙突から火の粉が飛び散り、火災やテントの屋根等が損傷する可能性があります。
- ⊘ テントの中で、火のついた薪や炭をストーブから取り出さないでください。火災や火傷の原因になります。
- ⊘ ガソリン、プロパンガスなどの可燃性の液体や気体、乾電池やバッテリー、もしくはそれらを使用する器具などをテント内に持ち込まないでください。火災や器具が破損する原因になります。
- ⊘ テント内では衣類等を乾燥させるなど、燃えるものを放置しないでください。火災の原因になります。
- ❗ 定期的に(1日に少なくとも1回)煙道掃除を行なってください。煙突が閉塞すると、テント内への排気ガスの漏出のほか、煙突から火の粉が飛び散り、火災やテントの屋根等が損傷する可能性があります。

⚠️注意

- ❗ ご使用の前に必ず試し張りを行ない、付属品や設置手順をご確認ください。
- ❗ お出かけの前に気象状況を十分に把握しておき、悪天候が予測される場合や、使用中に風や雨(雪)が強くなってきたらご使用を中止してください。
- ❗ 本製品には鋭利な部分がありますので、必ず手袋を着用してお取り扱いください。
- ⊘ 定員以上の込み合った状態では使用しないでください。人がテント内で転倒するとストーブに身体が触れ、火傷の恐れがあります。
- ⊘ タンクが空の状態でもストーブを使用しないでください。空焚きは破損の原因になります。
- ⊘ タンクの水は、飲み水として使用しないでください。
- ⚠️ 使用中はお子様やペットがテントの周りで遊ばないようにご注意ください。張り綱に引っ掛かり、怪我やテントが倒壊する恐れがあります。
- ⊘ お子様だけでは使用させないでください。お子様のご使用になる場合は、常に大人の監視が必要です。
- ⊘ 小さなお子様に組立や、ペグ打ちの作業をさせないでください。
- ❗ ストーブから取り除いた炭や灰の不始末は、火災の危険があります。再び燃え出さないよう適切に処分してください。
- ⚠️ 本書で使用が制限されている方その他、使用中に気分が悪くなったら直ちに使用を中止してください。
- ⚠️ 法令や地域の条例等により、たき火が禁止もしくは制限されている場所がありますのでご注意ください。また火災に関する警報が発令された場合は、本製品を使用しないでください。
- ❗ 万が一に備えて、使用中はその場を離れず、水を張ったバケツなど、消火準備をしてからご使用ください。

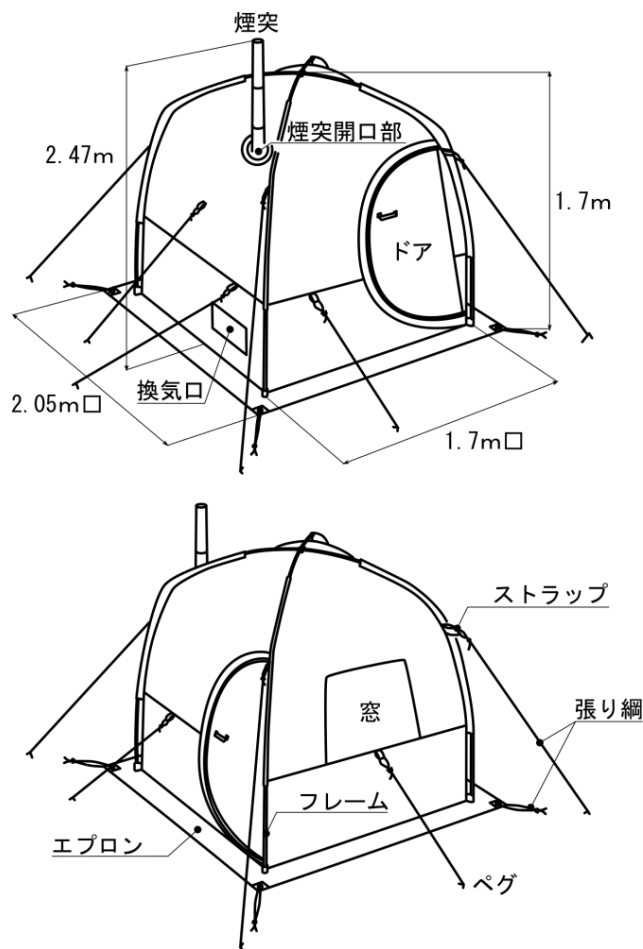
イベントやお祭りなど、多数の人が集まる催しにおいて本製品を使用する場合は、防火担当者を定め、消防署へ事前に届出のもと、本書とあわせて法令等による定めを遵守してください。

2. 本製品の特徴

本製品は、屋外専用の携帯式スチームサウナです。テントとストーブはバックパックに収納されています。テントには余分な水を直接地面に流すため、床がありません。

総重量はわずか13kg程度。自動車などで移動が困難な場所にも、バックパックを肩に掛け、または自転車やカーンなどでフィールドへ持ち運ぶことができます。

3. サイズと各部名称



4. 仕様

定員	:最大2名
収納寸法	:42×55×30cm
総重量	:約13 kg(内ストーブ7.8kg)
テント材質	:ポリエステル(テント、撥水加工) TPU(窓)／ポリアミド、PVC(その他)
フレーム	:φ10mmアルミ合金(アルマイト処理)
窓寸法	:W67×H67cm

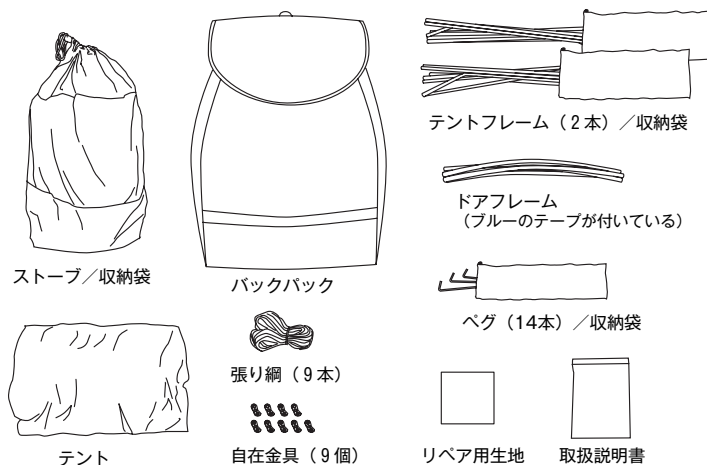
★ストーブの仕様

材質	:ステンレス鋼板 厚さ0.5mm
ストーブ高さ	:72cm(タンク上端まで)
タンク容量	:10.5ℓ(許容給水量:9ℓ)
炉の内寸法	:φ25cm×H29cm
炉の開口寸法	:W28cm×H28cm
燃料	:薪
最大薪長さ	:24cm

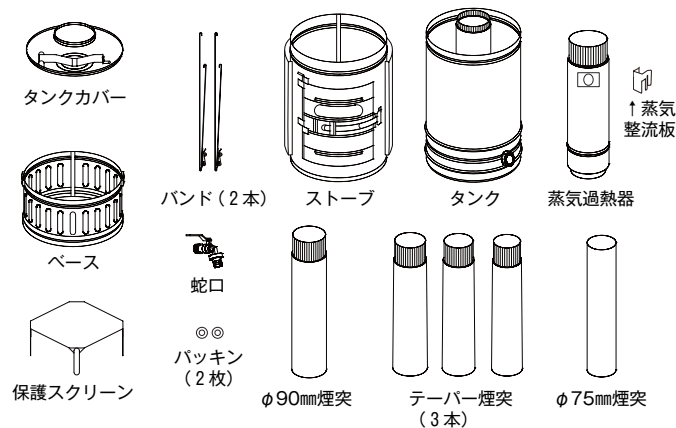
5. セット内容 (梱包品の確認)

ご使用前に必ず梱包内容をご確認いただき、万が一、不足や不良がございましたら、お買い求めの販売店へご連絡ください。

テント




ストーブ (ストーブ収納袋内の梱包品)



6. 組立

組立に関する注意事項

△危険	
<p>⊘ 煙突が外れたまま使用しないでください。一酸化炭素を含む煙がテント内に漏れて危険です。ご使用前に必ず煙突がしっかりと接続されていることをご確認ください。</p>	 <p>煙突の外れ危険</p>
△警告	
<p>❗ 建物や樹木の周りは風により複雑な空気の流れます。煙突がこの空気の流る影響を受けると燃焼不良や煙の逆流など、ストーブの性能低下や煙により健康を損なう恐れがありますので、できるだけ周りの大きな建物や樹木からテントを離して設置してください。</p> <p>❗ 風を受けてテントが破損しないよう、入り口は風下側になるように設置してください。</p>	
△注意	
<p>⚠ フレームを取り扱うときは、はね返りによる自身または周りの人・ものへの怪我や損害に十分注意してください。</p> <p>❗ 本製品には鋭利な部分があります。必ずグローブを着用の上、組立を行なってください。</p> <p>⚠ 砂地や積雪など、ペグを打ち込む地盤がやわらかい場合、付属のペグでは対応できない場合があります。</p>	

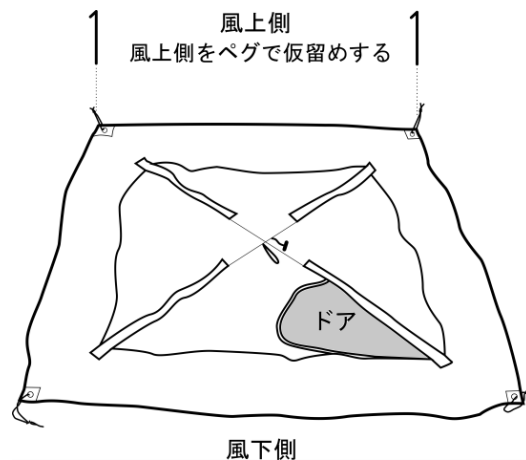
組立に必要な道具

- ペグ打ち用のハンマー

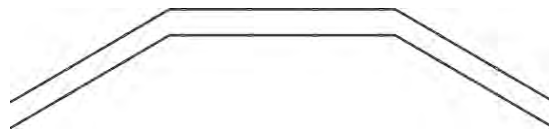
テントの組立

1. テントを設置する場所に、石や落ち葉などがある場合は取り除き、地面に凹凸があればあらかじめ均してください。

2. 入り口のドアを風下側に向けて、テントを地面に四角形に広げ、風で飛ばされないように、風上側の2箇所をペグで仮留めしてください。

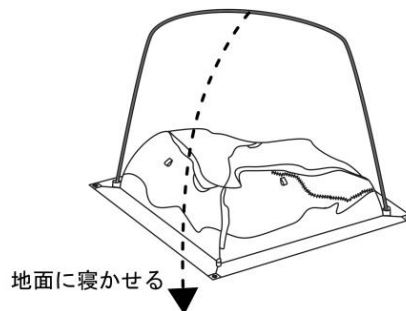
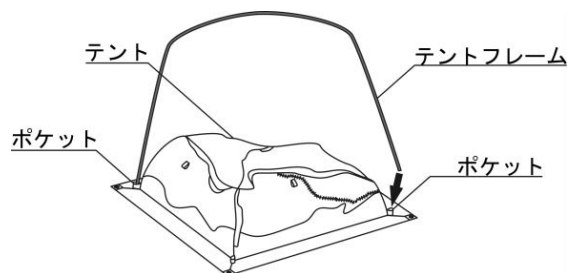


3. 2本のテントフレームをショックコードのとおり伸らし、奥までしっかりと差し込み、つなぎ合わせてください。

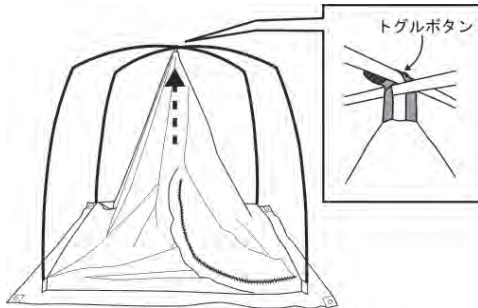


4. テントの四隅にあるポケットに、2本のテントフレームを対角に差し込みます。1本目のテントフレームを差し込んだら、いったん地面に寝かせてから、2本目のテントフレームを差し込んでください。

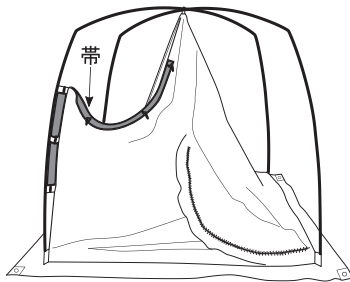
⚠ テンションのかかったフレームを取扱う際は跳ね返りにご注意ください。



5. 2本のテントフレームを同時に立てて中央で交差させ、そこに屋根の頂点にあるトグルボタンを掛けて、テントを吊り下げてください。
トグルボタンをとめる際は、必ず、2本のフレームをいっしょに巻き込んでとめてください。



6. テントの四隅にある帯をテントフレームまで手繰り寄せ、フレームを巻き込み、トグルボタンで固定します。フレームが露出しないよう正しく巻き込んでください。



○フレームが 露出しない (紐が帯を巻き込む)	✕フレームが 露出する

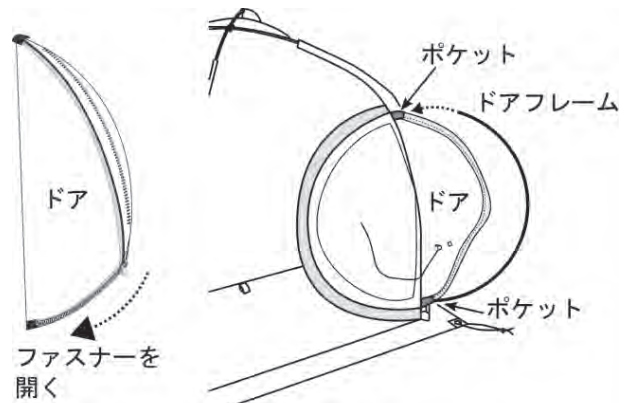
7. ドアを組み立てます。ドアフレームをショックコードのとおりに伸長し、奥までしっかりと差し込み、つなぎ合わせてください。



※ドアフレームには、ブルーのテープがついています。

8. ドアの縁にあるファスナーを開き、ドアフレームの端を、ドアの下にあるポケットに差し込み、フレームを湾曲させながらもう一方の端を、上のポケットに差し込んでください。

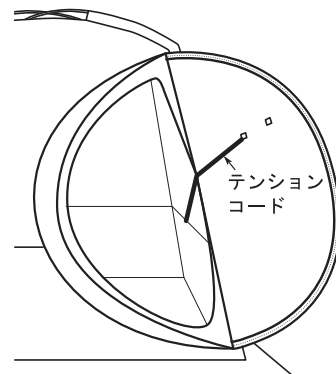
⚠ テンションのかかったフレームを取扱う際は跳ね返りにご注意ください。



9. ドアフレームを包み込みながらファスナーを最後まで閉めてください。



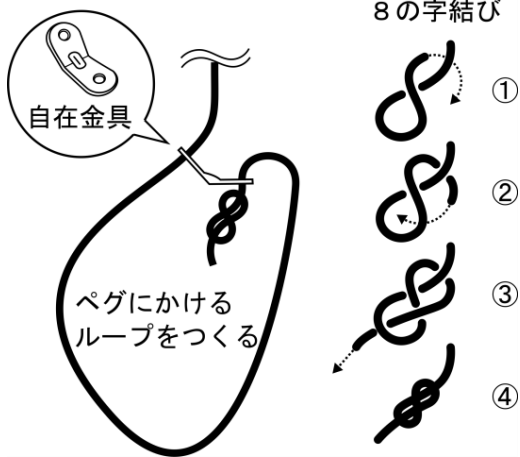
10. ドアとテントを結ぶテンションコードは、出入りの際に自動でドアが閉まることで、できるだけテント内の熱を外に逃がさないように設けられています。テンションが適当でない場合は、端部を結び直してテンションを調整してください。



張り網の固定

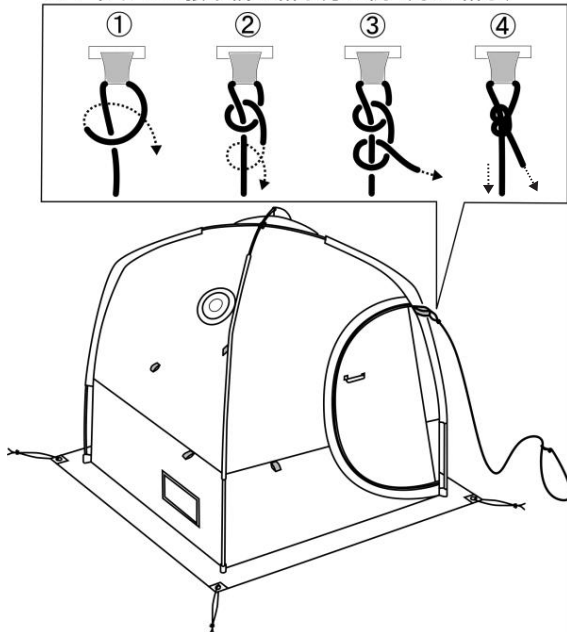
1. 図に従い、合計9本の張り網を自在金具に通し、抜けないように端部を8の字結びなどで結んでください。

注) 張り網の先端がほつれないように、あらかじめライターなどで溶かし固めてから作業を行なってください。



2. 張り網のもう一端を、テントの外壁5箇所、フレーム4箇所にあるストラップにほどけないようにしっかりと結んでください。

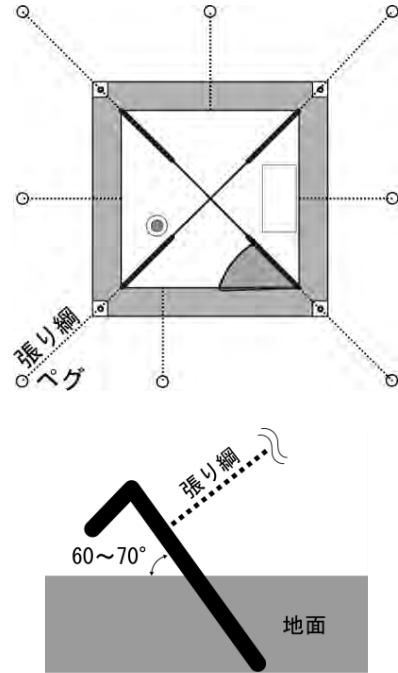
ストラップと張り網の結び方の例 (ふた結び)



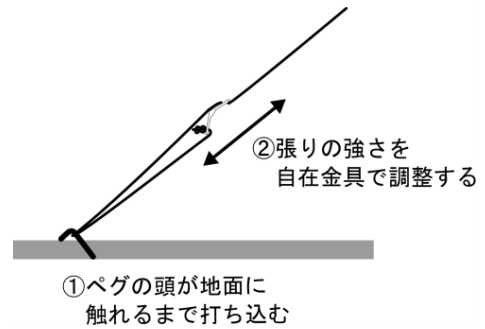
3. 張り網の長さを確認しながら、図に示された「○」印の位置に8本のペグを打ち込みます。

注) 換気口上部の張り網は、ストーブを設置した後でペグを打ち込みます。

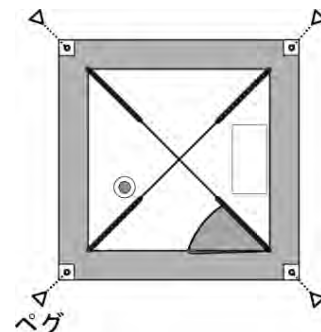
ペグは張り網の方向とは逆に 60~70° 傾けて、張り網を掛ける隙間を残して地面に打ち込んでください。



4. 打ち込んだ全てのペグに張り網のループを掛け、ペグの先端が地面に接するまで再度打ち込んでください。自在金具で調整しながら、8本の張り網に均等に強いテンションを掛けてください。



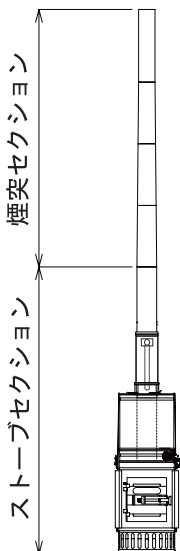
5. 最後に、エプロンの四隅にある張り網を、緩まないようにペグで「△」印の位置に固定してください。



ストーブの組立概要

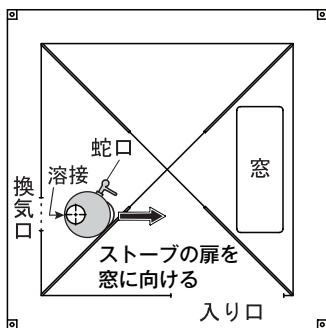
筒型の各部品には、背面に必ず縦の溶接（もしくは、はぜ折りの）ラインがあります。

基本的な組立のルールは、そのラインを基準として、ベースから上に向かって筒型の各部品を順番に差し込んでいく方法です。組立はⅠ. ストーブセクションとⅡ. 煙突セクションに分けて行ないます。



ストーブの配置

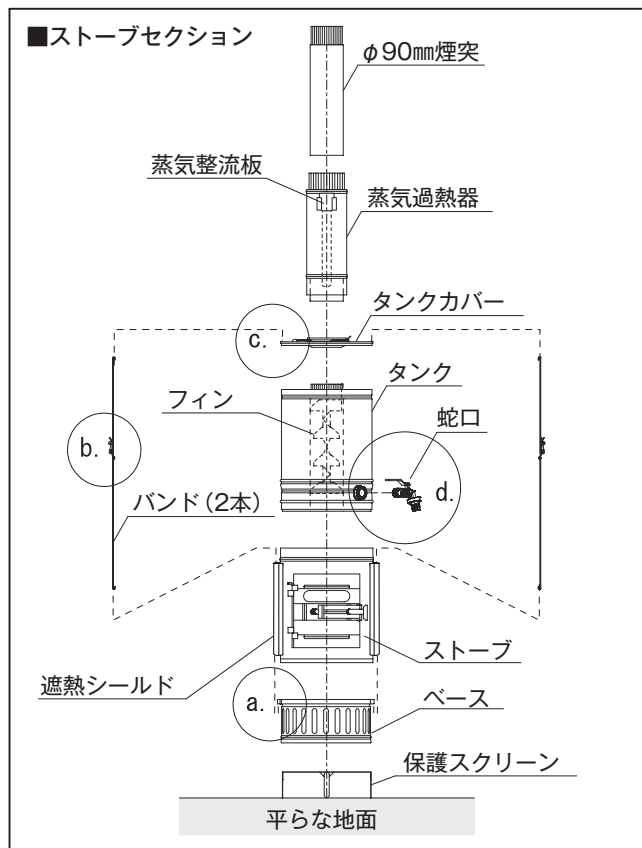
ストーブは図に従い、テント内の煙突開口部の真下で、ストーブの扉が窓側に向くように配置します。また、全ての部品にある筒の溶接跡が換気口に向くように組み立てていきます。



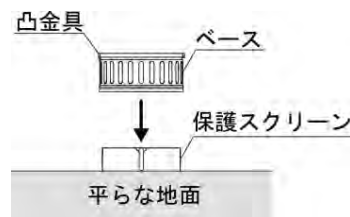
ストーブ配置平面図

Ⅰ. ストーブセクションの組立

■ ストーブセクション



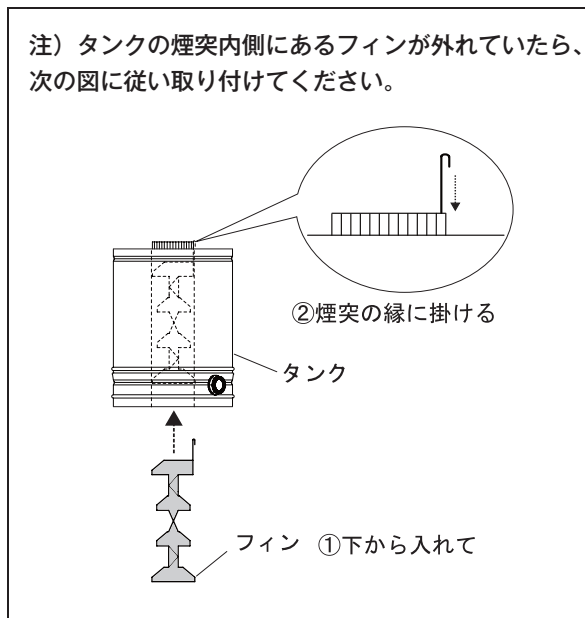
1. ストーブを収納袋から取り出し、重ねられている全ての部品を取り外して地面に並べ、地面に凹凸がある場合は予め均してから、先に保護スクリーンを置き、その上からベースの左右2箇所にある凸金具を上にして、筒の溶接跡を換気口側へ向けてベースを被せてください。



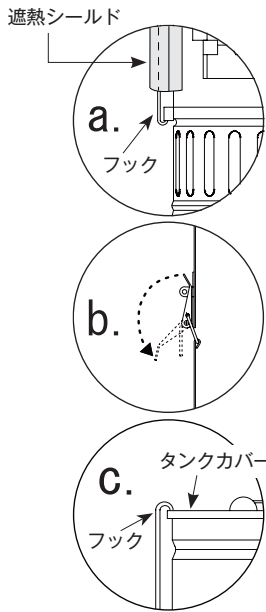
- ❗ 部品の表面にビニール製の保護シートが貼られている場合は、必ず剥がしてください。
- ❗ 保護スクリーンは通気性を備えるベースとともに、地面への熱を遮熱する役割を果たしますので、必ず取り付けてください。

2. 溶接ラインを基準にしてベースの上に、ストーブ、タンクの順に差し込み、タンクカバーの丸穴に煙突の中心が収まる位置を確認し、タンクカバーの縁とタンクの縁をあわせて、上からしっかりと差し込みフタをしてください。

注) タンクの煙突内側にあるフィンが外れていたら、次の図に従い取り付けてください。



3. ベースからタンクカバーまでの部品が外れないように、次の図 a ~ c に従い左右のバンドを取り付けます。バンドは短い平板側が上になるように取り付けてください。

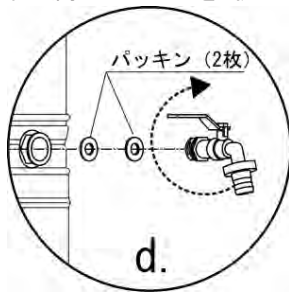


- a. 長い平板側の先にあるフックを遮熱シールドの内側に通し、ベースの左右にある凸金具に、下から掛けてください。
- b. バンドの締め付け金具を矢印の方向に緩めます。
- c. タンクカバーの縁に短い平板側の先にあるフックを上から掛けて、図b. の締め付け金具をもとに戻して固定します。

4. タンクカバーの上に蒸気過熱器と、その上にφ90mm煙突(残りの煙突の中で一番長いもの)をしっかりと差し込みます。

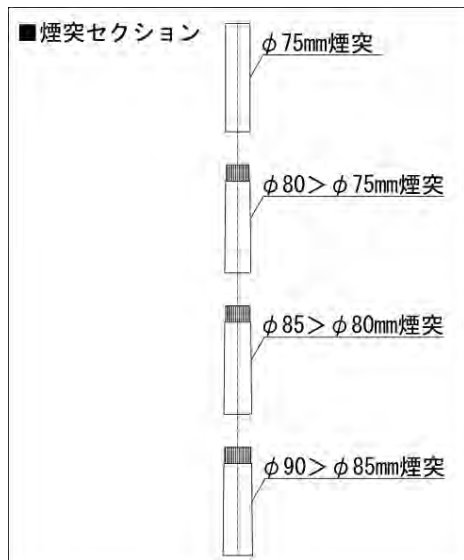
5. タンクに蛇口を取り付けます。付属のパッキンを2枚重ねてタンク側に挿入してから、テンションを感じるまで蛇口を時計回りに締め込んでください。口は必ず下に向けてください。

※交換用パッキン、蛇口については最終ページをご覧ください。



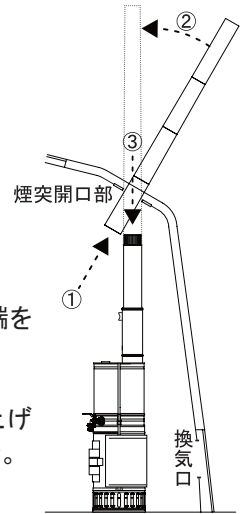
II. 煙突セクションの組立

1. 3本のテーパー煙突とφ75mm煙突を次の図に従い、しっかりと差し込んでください。



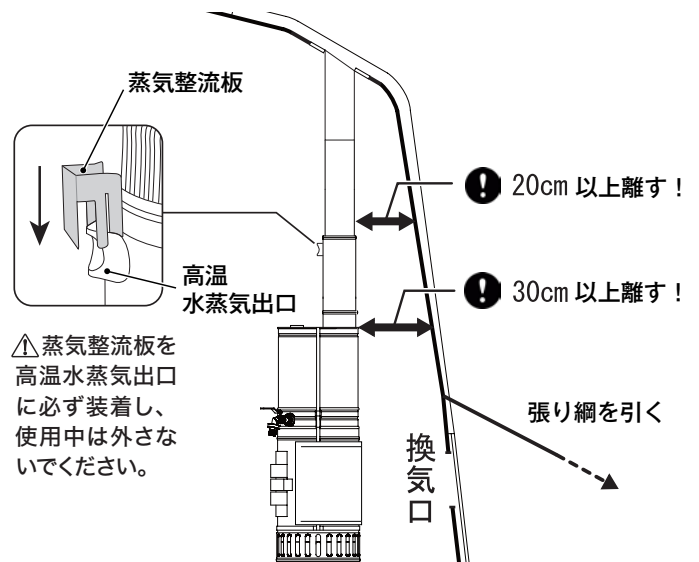
2. 組み立てた煙突セクションは、図①~③の手順に従い、先に組み立てたストーブセクションにしっかりと差し込んでください。

- ① テントの中から煙突の先端を煙突開口部へ差し込む。
- ② 垂直に立てる。
- ③ 接続できるまで一旦持ち上げてから、しっかりと差し込む。



3. ストーブの設置が終わったら、換気口上部の張り綱を引き、ストーブとテントの間に防火上安全な離隔距離を確保します。

テントが風を受けたとき、テント生地がたわんでストーブや煙突に近づかないように、換気口上部の張り綱を、ペグで確実に地面に固定し、図に示す「ストーブとテント生地の間に30cm以上」、「蒸気過熱器とテント生地の間に20cm以上」の空間が確保されるまで自在金具で調整してください。ストーブの燃焼中は時折点検して、必ずその距離を保持しつづけてください。



4. 組立が完了したら、安全のために次のチェック項目を必ずご確認ください。

✓	組立安全のチェック項目
	風を受ける側に、テントの入り口が向いていないこと。
	ストーブを置いた床に、燃えたり溶けたりするものがないこと。
	ストーブがぐらつかないこと。
	煙突がしっかりと差し込まれていること。
	高温水蒸気出口に蒸気整流板が装着されていること。
	ストーブとテント生地の間が30cm、蒸気過熱器とテント生地の間が20cm以上離れていること。
	煙突の半径3メートル以内に燃えるものがないこと。
	ペグにぐらつきがなく、張り綱に緩みがないこと。

7. 使い方

ストーブの特徴

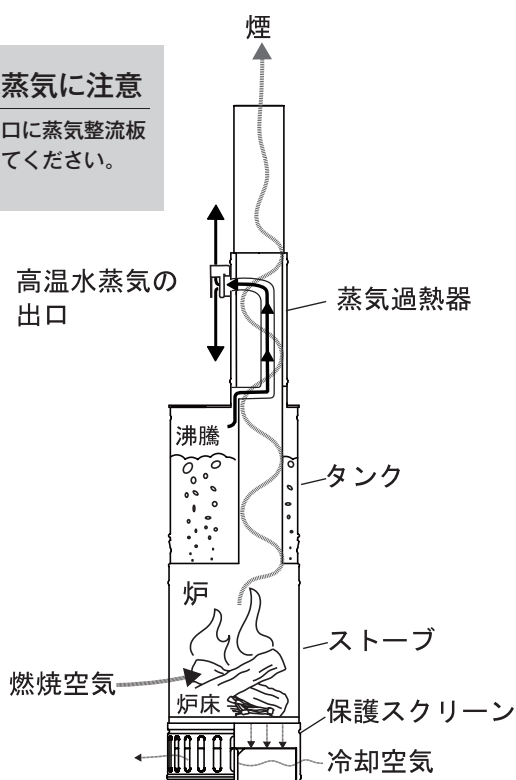
ストーブはコンパクトながら、熱を効率よく交換するための仕組みを備えています。

ストーブの扉には、炉へ常に燃焼空気を供給するための、開放された2つの丸い給気口があります。タンク内の水は炉と煙突の熱を受けて沸騰し、発生した蒸気は煙突の一部でもある蒸気過熱器に導かれます。蒸気過熱器の内部は、煙を排出する煙突の役割に加え、水蒸気だけを通す蒸気管があり、高温水蒸気を効率よく排出します。また、蒸気整流板により、テント内の上部はもちろん、側部、下部まで蒸気が均一に行き渡ります。

⚠ 高温水蒸気に注意

高温水蒸気出口に蒸気整流板を必ず装着してください。

→P9 右下図



ストーブの運転に準備するもの

- 水: 水道水や川の水
 - ⊙ 海水は使用しないでください。
- 水を入れる容器: バケツやジョウロなど
タンクの許容給水量は9ℓです。
- 燃料: よく乾燥した長さ24cm以内の自然の薪



焚きつけ用の細い薪



燃焼用の薪

- ⊙ 他の燃料は使用しないでください。

薪の品質はマツ、スギ、ヒノキなどの針葉樹と、ナラ、クヌギなどの広葉樹に分かれます。針葉樹は着火性に優れていますが、火の粉が飛散しやすく火持ちが良くありません。広葉樹はその逆の性質を持っており、ストーブ用に推奨される優れた薪です。

- 着火道具: 着火剤、火ばさみ、ライターなど
- 安全防具: 燃えにくく断熱効果のある手袋
- 照明:
 - 夜間に明かりが必要な場合は、三脚やハンガーなどを用いて、外からテント窓の付近へ設置し、透過した明かりで、テント内を照らしてください。
- 腰掛: 椅子、パッドなど

- ⚠ 金属が露出している椅子等は、金属の部分が高温になります。火傷にご注意ください。

ストーブを焚く前に必ず行なうこと

⚠ 危険

- ❗ 換気口の近くに物などは置かず、使用中は常にテントの中へ新鮮な空気を取り込んでください。換気口をふさぐと、一酸化炭素中毒や、燃焼不良の恐れがあります。



常に換気

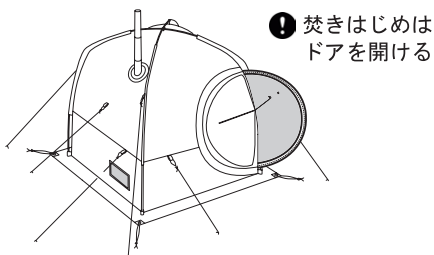
⚠ 注意

- ❗ タンクの空焚きによる破損を防ぐために、常に容積の半分以上水が入っている状態でご使用ください。

1. 焚き始めはドアを開ける

焚きはじめは、テント内に煙が逆流する場合があります。燃焼が安定するまでの間は、入り口のドアを開けてください。

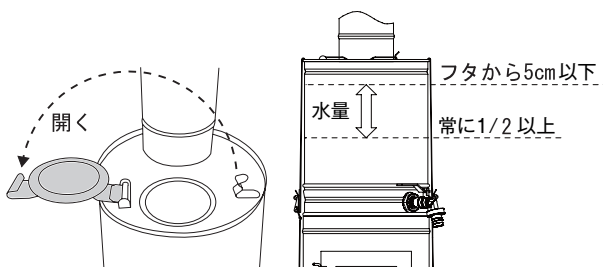
補足：風に押されて、テントのドアが閉まってしまう場合は、丸太や椅子などをストッパーとして使用してください。



⚠ 草や落ち葉、積雪などで換気口がふさがらないようご注意ください。

2. タンクに水を入れる

タンクのフタを開けて、沸騰した時にフタからお湯があふれないよう、フタから下に約5cmのスペースを残して中に水を注ぎ、給水後はフタをしっかりと閉めてください。

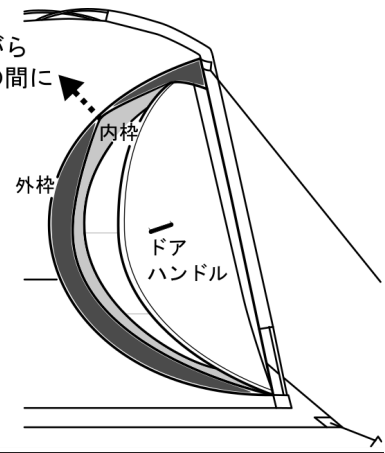


各部の操作方法

テントドアの開閉

ドアの閉め方：(内側から閉める場合も共通です)

枠を広げながら外枠と内枠の間にドアを挟む。



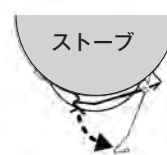
ドアの開け方

テントの外から：ドアハンドルを引く

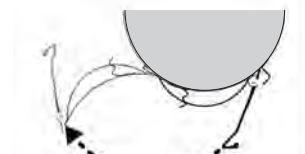
テントの中から：ドアを押す

ストーブ扉の開閉

開く



U溝からハンドルを手前に引きロックを外す

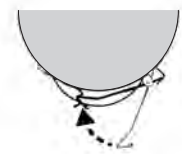


ハンドルを左にスイングさせ扉を開ける

閉める

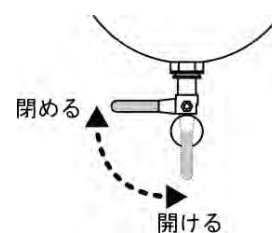


ハンドルを右にスイングさせながら、先端をU溝へ入れる



ハンドルをU溝へ押し込みロックさせる

蛇口の開閉



運転中の注意事項

⚠ 危険

- ⊘ 指示のあるとき以外は、ストーブのドアを開けたまま使用しないでください。また、破損等により扉が閉まらない場合は、直ちにご使用を中止してください。



ストーブ扉
開放危険

⚠ 警告

- ⚠ ストーブの燃焼中または直後は、ストーブ、タンク、煙突の表面や水蒸気出口が高温になりますので、火傷に十分ご注意ください。ストーブを操作するときは、必ず燃えにくく断熱効果のある手袋を着用してください。
- ❗ 着火から燃焼が安定するまでの間は、テントの中に煙が漏れる場合があります。安全のため、燃焼が安定するまでの間は、換気口だけでなく、テントのドアも開けたままにしておいてください。
- ❗ ご使用中は一定の時間で、張り綱の緩みや換気口の閉塞がないかを確認してください。
- ❗ 定期的に（1日に少なくとも1回）煙道掃除を行ってください。煙突が閉塞すると、テント内への排気ガスが漏出するほか、煙突から火の粉が飛び散り、火災やテントの屋根等が損傷する可能性があります。
- ⊘ ガソリン、プロパンガスなどの可燃性の液体や気体、乾電池やバッテリー、もしくはそれらを使用する器具などをテント内に持ち込まないでください。火災や器具が破損する原因になります。
- ⊘ タンクから水が漏れる場合は直ちにご使用をおやめください。

⚠ 注意

- ⚠ 万が一に備えて、使用中はその場を離れず、水を張ったバケツなど、消火準備をしてからご使用ください。
- ⚠ 通常のご使用に伴い、金属の変色や内部応力に起因する表面に緩やかな凹凸が現れることがありますが、性能上問題はありません。ただし、過剰燃焼は金属に大きな変形をもたらす、破損の原因になりますので、焚き過ぎにご注意ください。

ストーブの焚き方

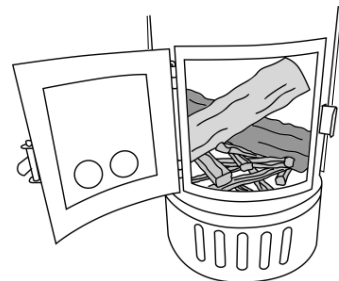
初めてストーブに火を入れるときは・・・

ストーブを本格的に使い始める前に、臭いのもととなる表面にある製造上の残留物を焼き払う目的で、薪を少量にとどめた「慣らし焚き」を行なってください。

この際、煙が発生しますので、必ず換気のため換気口のほか、テントのドアを開けたまま行なってください。慣らし焚きの操作手順は本項と同じです。

1. 焚きつけの準備

ストーブの扉を開けて、焚きつけに必要な細く燃えやすい薪をしっかりと投入します。その上に太い薪を1～2本重ねてください。



着火時に、細く燃えやすい焚きつけ用の薪を多めに使うのは、強い上昇気流を発生させるためです。強い上昇気流が発生したら、それ以降は炉に負荷を掛けないために燃焼用の太い薪を使用してください。

2. 着火

着火剤などを使って焚きつけ用の薪に火をつけたら直ちにストーブの扉を閉じ、ロックを確認してください。燃焼中は常に火の状態と周りに注意しながらストーブを監視しつづけてください。

- 炎の勢いが増すとストーブから「ポツ・ポツ・ポツ」と音が出る場合があります。一時的である場合は異常ではありません。
- 燃焼中にストーブの表面が赤熱しますが、一時的である場合は異常ではありません。

⚠ 煙突表面の赤熱、および煙突出口からの炎の漏出は、主に過度な燃料供給による過剰燃焼の症状です。火災や破損の恐れがあります。

3. 薪の追加

タンクの水が沸くまで薪を追加していきます。

扉を開け、追加する薪へ火が移るのに十分な熾きが残っている場合は燃焼用の薪をそのまま投入してください。熾きが不足している場合は、焚きつけからやり直してください。薪の追加は素早く行ない、追加した後は必ずストーブの扉を閉めてください。

- △ 炉に投入する薪の量は、扉の高さの2/3までを目安とし、入れすぎにご注意ください。
- △ ストーブの火力や持続時間は、燃料の品質や乾燥度合い、その日の気温や気圧などの影響を受けるため、一定ではありません。

4. 沸騰と給水

タンクの水が沸騰したら、テントのドアを閉めてテント内を暖めます。この時点で、入浴中に蒸気を排出し続けるために必要な火の勢いがない場合は、入浴前に薪を追加しておいてください。

タンクの水は、着火から長くとも1時間毎に必ず残量を確認し、空焚きにならないよう必要に応じて給水してください。

- △ 安全のため、入浴の身支度を整えてからはストーブの操作を行なわないでください。

8. 入浴について

入浴の注意事項

ご入浴に関する △ 注意

- 次の方は入浴をおやめください。
 - 体調や気分がすぐれない方
 - 酒気を帯びている方
 - 乳幼児
 - 妊娠中の方
- お子様だけでは使用させないでください。お子様のご使用になるときは、常に大人の監視が必要です。
- 病気や怪我の治療・療養中、薬を服用中の方は、必ず医師へご相談のうえ、ご入浴ください。
- △ 入浴中に気分が悪くなったら、直ちに外に出て、無理をせず安静にしてください。

入浴に準備するもの

- タオル □ バケツ □ 水分補給用のドリンク

入浴の身支度について

- 安全のため、入浴の身支度は入浴前に済ませ、テントの中では行なわないでください。
- 入浴の前に、めがね、時計、宝石類などの身の回り品をすべて外してください。
- 着衣は金属製のファスナーや金具がついているものを避け、水着を着用してください。
- 足元は裸足を避け、サンダルなどを履いてください。

サウナの温度管理について

サウナの室温は、その日の気温や気圧などの外的な要因もありますが、ストーブの火力やその持続時間に依存し、燃料の品質と乾燥度合いが最も影響します。

推奨する燃料は、よく乾燥した広葉樹の薪で、太さを大小2種類ほどご準備いただき、薪の投入量により火力や持続時間を調整し、サウナの室温を管理してください。

適切な管理にもかかわらず、入浴中に足元に寒さを感じる場合があります。外の冷たい空気がテントと地面の隙間からテント内に入るようであれば、テントのエプロンの上に砂や小石を載せて、気密を高めてください。

- △ 危険：換気口は絶対に塞がないでください。



入浴方法

1. 身支度を整えてからテントに入り、ドアを閉め、腰掛に座ります。
2. 身体を慣らすために、初めは汗が出てきたら一旦外に出て、水分を取りながら脈が落ち着くまで身体を休ませてください。
3. その後は徐々に入浴時間を長くしていきますが、無理をせず、長くとも15分程度にとどめ、次の入浴までの間には必ず水分補給とともに、脈が落ち着くまで十分な休憩の間隔をとってください。

汗を流す場合

入浴後はタンクに残った熱湯でぬるま湯をつくり、身体に負担なく汗を流すことができます。

1. はじめに、タンク内の残水量を確認してください。少なければ、給水して必要に応じて沸かしてください。
2. 熱湯が入った容器を転倒させると火傷の恐れがあります。タンクの湯を容器に移す際は、あらかじめ容器に冷たい水を汲んでおいてください。
3. 蛇口の下に水の入った容器を置いて、ハンドルを開いてタンクの熱湯を容器に注ぎ、好みの温度になったらテントから離れて汗を流してください。

❗ ストープの燃焼中(炉に熾きが残っていることも含む)にタンクの中を空にすると、破損の原因になります。排出後は必ず水を補充してください。

⚠ バケツなどの容器に熱湯を移す際は火傷に十分気をつけてください。

🚫 タンクの水は、飲み水として使用しないでください。

9. 消火

消火は、ストーブの扉を閉じたまま、炉の中の薪や炭が自然に燃え尽きるまでお待ちください。

🚫 消火のためにストーブに水をかけるのはおやめください。急激な温度変化はストーブの破損の原因となります。

🚫 テントの中で火のついた薪や炭をストーブから取り出さないようにしてください。火災の原因になります。

10. 緊急時の対処法

万が一、がおきたら・・・

- 突然天候が急変する。
- テントが飛ばされそうになる。
- テント内に煙が充満する。
- テントに火がつく。
- ストープが異常燃焼を起こす。 など

入浴中に身の危険を感じたら、テントの中からドアを外に押し退けて素早くテントの外に退避し、まずはテントから離れて身の安全を確保してください。

11. 撤収・バックパッキング

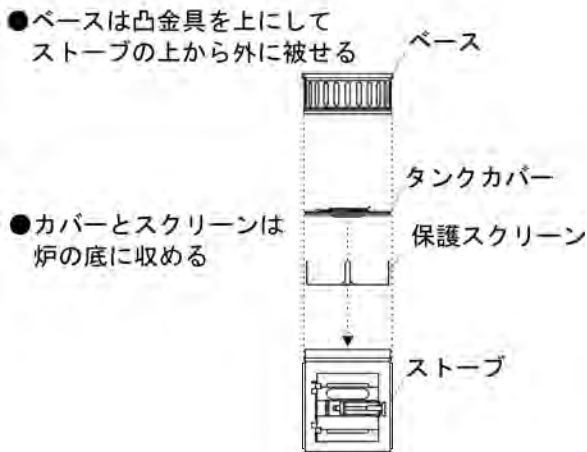
⚠ 注意

- ❗ ストープ、タンクおよび煙突が十分冷めていることを確認した上で作業を行なってください。
- ❗ 本製品には鋭利な部分があります。必ずグローブを着用の上、作業を行なってください。
- ⚠ タンク内の熱湯を廃棄する際は、火傷に十分気をつけてください。
- ⚠ ストープから取り除いた炭や灰の不始末は、火災の危険があります。
- ⚠ ストープと煙突は薄い鋼板でつくられています。移動中の衝撃により変形の恐れがありますので取り扱いにご注意ください。

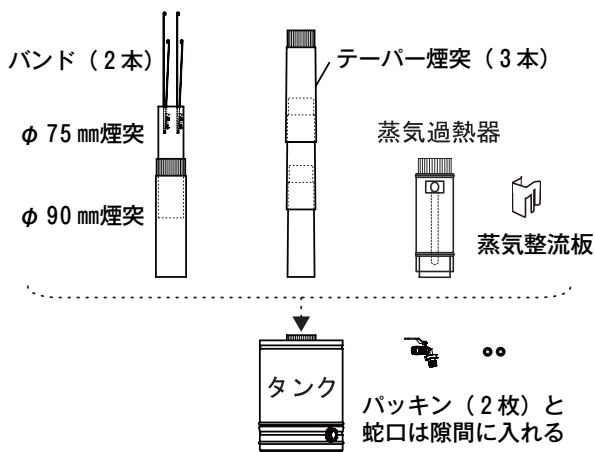
バックパッキングの方法

1. ストープの火が消えていることを確認してから、タンクの中の湯を一旦バケツなどに全て移し、テントの外に流してください。
2. ストープ、タンク、煙突が冷めていることを確認してから、組立と逆の手順で煙突とストーブを取り外してください。炉の中に溜まった灰や炭などの燃え残りの中には、火種が残っている場合がありますので、取り出した後は、防火上安全に処分してください。各部品を①～④の図に従い積み重ねてから、付属の袋に収納してください。

①ストーブの中に収納するもの

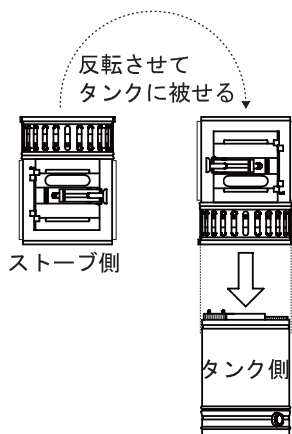


②タンクの中に収納するもの

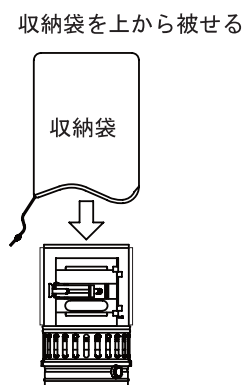


※蒸気整流板やパッキンを紛失しないようご注意ください。
紛失・劣化した場合のアフターパーツ → P16 をご覧ください。

③スタッキング



④カバー



3. つづいて、テントを解体します。組立手順の逆に行なってください。

- ⚠ 風の吹いているときは風下側からペグを抜き、テントが飛ばされないようご注意ください
- ⚠ テンションのかかったフレームを取扱う際は跳ね返りにご注意ください。

4. バックパックに詰め込みます。
テントフレーム(保存袋あり)とドアフレームは、内側のサイドポケットに収納してください。

12. メンテナンスと保管

末永くご愛用いただくために、ご使用後は必ず次の内容に従い、適切にメンテナンスを行なってください。

ストーブ・煙突のメンテナンス

- ご使用後(もしくは、1日に少なくとも1回)は必ずストーブの炉および煙突内部のススや燃え残りなどを、ブラシ等を使って除去してください。水で洗う場合は柔らかなスポンジなどを使い、洗浄後はしっかり乾燥させてください。
- 燃焼による金属の変色は正常な変化です。金属磨き剤の使用や、ヤスリやペーパーがけは行なわないでください。
- メンテナンスにあわせて、ストーブと煙突に亀裂や穴あきなどを点検し、破損が認められた場合はご使用をおやめください。

テント、バックパック、収納袋、張り綱のメンテナンス

- 洗濯機やドライクリーニングはご使用にならないでください。生地の変質や色落ちの原因になります。
- ご使用後は、泥やススなどの汚れを柔らかなスポンジなどを使って水で洗い落とすか、濡れたタオルで拭き取り、陰干しでしっかり乾燥させてから保管してください。汚れや水分が付着したまま保管すると、臭い、カビの発生や生地の変質の原因となります。
- 長期間の使用に伴い、テントの撥水効果が低下した場合は、市販の撥水剤をご購入いただき、取扱説明書の指示に従い、屋外で塗布してください。

- ファスナーのすべりが悪くなった場合は、市販の潤滑油かロウソクのロウをブラシで塗布してください。
- テントの軽微な穴や破れは、市販のテント用接着剤をご購入いただき、付属のリペア用生地(ポリエステル)を貼り付けて補修してください。

注1)補修はあくまで応急処置となります。

注2)市販の接着剤およびリペア用品につきましては、その取り扱い方法を間違えると修理後の性能が著しく低下する恐れがあります。リスクをご理解いただいた上で、お客様のご判断のもと、作業を行なって頂きますようお願いいたします。

フレーム、ペグのメンテナンス

- 汚れは濡れたタオルで拭き取りよく乾燥させてから、表面に市販の金属油を取扱説明の指示に従い塗布してください。

保管

⚠ テントの常設は、紫外線等により劣化を早める原因となります。

- メンテナンス後は、高温多湿の場所を避け、お子様の手の届かない場所で保管してください。
- バックパックの中のストーブが変形しますので、重いものを積み上げないでください。

13. アフターサービス

商品の品質には万全を期しておりますが、万一の不具合がございましたら、お買い求めの販売店を通じてご用命ください。弊社で内容もしくは商品を確認後、無償修理もしくは交換いたします。

誤った使用方法・メンテナンスによる破損、経年劣化、通常使用による磨耗やダメージなどは除外されます。

サポートをお受けいただく場合には、販売店でのご購入を証明するものが必要となりますので、ご購入時のレシートは大切に保管してください。

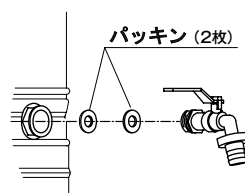
その他お気づきの点がございましたら、お電話にてお伝えいただくか、当社のウェブサイトのフォームからお問い合わせください。

アフターパーツ

紛失、劣化した部品は新たに購入できます。お買い求めの販売店までお問い合わせください。



商品名	品番
蒸気整流板	15100



- 2枚組ゴムパッキンのサイズ
- ・ 外径 24 mm
 - ・ 内径 12~16 mm
 - ・ 厚さ 2~2.4 mm

商品名	品番	備考
ゴムパッキン2枚組	93335	製品に同梱のパッキンと同等品
フッ素加工 ゴムパッキン2枚組	93331	へたりが少なく、使用頻度が高い場合に推奨
蛇口	27201	蛇口交換の際には、上記2枚組のパッキンも交換してください



THE FIRESIDE COMPANY
ファイヤーサイド株式会社

長野本社 / 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂497-871 TEL:0265-82-4676(代) FAX:0265-82-4683

☎ 0120-46-7877 e-mail: info@firesidestove.com

● ファイヤーサイド公式サイト <https://www.firesidestove.com>

● 薪ストーブエッセイ・森からの便り <https://fireside-essay.jp>

Copyright 2020 Fireside Company Ltd. 掲載されている全ての情報及び写真、イラスト等の無断転載、複写、複製を禁じます。

FS-2020.06. ⑦